



TITLE:

編集後記 (泌尿器科紀要 第45巻第7号)

AUTHOR(S):

CITATION:

編集後記 (泌尿器科紀要 第45巻第7号). 泌尿器科紀要 1999, 45(7): 520-520

ISSUE DATE:

1999-07

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/114070>

RIGHT:

4. 論文の訂正：査読審査の結果、原稿の訂正を求められた場合は、40日以内に、訂正された原稿に訂正点を明示した手紙をつけて、前記泌尿器科紀要刊行会宛て送付すること、なお、Editor の責任において一部字句の訂正をすることがある。
5. 校正：校正は著者による責任校正とする。著者複数の場合は校正責任者を投稿時指定する。
6. 掲載：論文の掲載は採用順を原則とする。迅速掲載を希望するときは投稿時にその旨申し出ること。
 - (1) 掲載料は1頁につき和文は5,500円、英文は6,500円、超過頁は1頁につき7,000円、写真の製版代、凸版、トレース代、別冊、送料などは別に実費を申し受ける。
 - (2) 迅速掲載には迅速掲載料を要する。5頁以内は30,000円、6頁以上は1頁毎に10,000円を加算した額を申し受ける。
 - (3) 薬剤の効果、測定試薬の成績、治療機器の使用などに関する治験論文および学会抄録については、掲載料を別途に申し受ける。
7. 別冊：実費負担とし、著者校正時に部数を指定する。

Information for Authors Submitting Papers in English

1. Manuscripts, tables and figures must be submitted in three copies. Manuscripts should be typed double-spaced with wide margins on 8.5 by 11 inch paper. The text of all regular manuscripts should not exceed 12 typewritten pages, and that of a case report 6 pages. The abstract should not exceed 250 words and should contain no abbreviations.
2. The first page should contain the title, full names and affiliations of the authors, key words (no more than 5 words), and a running title consisting of the first author and two words.
e.g.: Yamada, et al.: Prostatic cancer · PSAP
3. The list of references should include only those publications which are cited in the text. References should not exceed 30 readily available citations. Reference should be in the form of superscript numerals and should not be arranged alphabetically.
4. The title, the names and affiliations of the authors, the director's name, and an abstract should be provided in Japanese.
5. For further details, refer to a recent journal.

編 集 後 記

SIU がもめている。Secretary General の交代の後、機関誌の問題、基金、会費、会員登録など解決しなければならぬ課題が山積しているが、今年の5月1日 Dallas で開かれた理事会において2000年に New Delhi で開催する予定の総会を Singapore に変更したことが、火に油を注ぐことになった。この理事会決定に対し、インド泌尿器科学会は猛然と反発し、いまだに2000年に予定通りインドで開催すると主張しているものもある。

インドで総会をすることは、1997年9月の Montreal における総会の時会員の投票で決めたものであり、インド泌尿器科学会も鋭意準備を進めてきた。それを今頃になって変更するのは何故か？ この間の事情は、すでに会員諸氏は SIU 事務局やインド泌尿器科学会からの通知でご承知のことと思う。要するに学会運営の専門家が、学会を開催するに必要な経費、展示場を含む学会場、ホテルなどの宿泊設備、各国からのインドへの旅費、予想される参加者数、また企業の協力の可能性などいろいろな面からの分析の結果、New Delhi で SIU 総会をすれば不成功に終わるとの見解を理事会に答申した。それを受けて、理事会で審議し結論として変更を決めたものである。

学会総会が成功するとはどういうことであろうか？ 何よりも会員のニーズを満たすものでなければならない。学問の進歩に寄与し、会員相互の懇親の実をあげ、経済的にみても赤字を出すようなことがあってはならない。それだけではない、国際学会を機に資金を集め SIU の運転基金にも充てなければならない。しかし同時に、学会の mission に沿うものでなければならない。これら全ての点を充たさねば、成功とはいえないであろう。

私見であるが、今回の SIU 理事会の決議は已むを得ざるものであったと考えたい。インド泌尿器科学会の憤懣やるかたない気持ちは十分に理解できるが、泌尿器科学の未来のため、ここは大人の判断をしてほしいものである。さらに、今後総会の在り方について議論を尽くさねばならないと考える。

この難局に直面している阿曽理事長を日本泌尿器科学会全体が支援して、SIU が健全な方向に進むように協力するよう望んでいる。

本号には阿曽 SIU 理事長との対談を載せた。SIU 理解のためにもお読み頂きたい。

(吉田 修)